

「平成24年度森林・林業白書」の総括

1. 閣議決定・公表までの経緯

- (1) 平成24年度白書では、冒頭にトピックスを設け、平成24年度における森林・林業に関する特徴的な動きを抜粋して紹介・解説した。特集章では「森林・林業の再生と国有林」をテーマに、森林・林業の再生に向けて進めている取組を整理するとともに、国有林野事業の今後の展開方向を記述した。
- (2) 昨年7月以降、計4回の施策部会を開催してご審議いただき、本年4月の林政審議会でも諮問・答申が行われた。その後、6月7日に閣議決定・国会提出を行い、公表した。(別添1)

2. 閣議決定・公表後の動き

(1) 報道

「森林・林業白書」の公表等に伴い、国産材供給量の回復や木材利用、海岸防災林の再生、若者の就業増加等の記述内容に着目した関係記事が掲載された。(別添2)

(2) 広報・普及

閣議決定本の配布、市販本の出版、説明会の開催、解説記事の投稿、英語版の作成等に取り組んだ。(別添3)

(3) 主な評価

説明会でのアンケート調査等では、

- ・日本の森林・林業を全体的に理解する上で不可欠な資料である
- ・脚注が充実するなど情報量が豊富になった
- ・図表や写真等があり理解しやすい
- ・森林・林業再生に向けた取組への理解が深まった

等の評価があった。(別添4)

(以上)

「平成24年度森林・林業白書」の
閣議決定・公表までの経緯

- 平成24年7月20日 第1回施策部会
- ・作成方針（案）の検討
- 10月30日 第2回施策部会
- ・平成24年度森林及び林業の動向（構成と内容（案））
- 平成25年3月8日 第3回施策部会
- ・平成24年度森林及び林業の動向（1次案）
 - ・平成25年度森林及び林業施策（構成（案））
- 4月3日 第4回施策部会
- ・平成24年度森林及び林業の動向（2次案）
 - ・平成25年度森林及び林業施策（案）
- 4月26日 林政審議会
- ・平成24年度森林及び林業の動向（案）
 - ・平成25年度森林及び林業施策（案）
- (諮問・答申)
- 6月7日 閣議決定・国会提出・公表

「平成24年度森林・林業白書」に関する主な報道について

紙名	日付	記事の概要
時事通信	6/7	<p>【木材利用拡大し自給率向上 林業白書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府は7日に2012年度森林・林業白書を閣議決定した。木材自給率を高めるため、公共建築物の木造化や木質バイオマス発電の普及を促進し、需要を喚起するよう求めている。 ・木材自給率が26.6%まで回復したことや、「緑の雇用」事業により、若年層の就業者が増えているとした。
共同通信	6/7	<p>【林業白書、海岸防災林の再生特集 若者就業進む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府は7日に2012年度森林・林業白書を閣議決定した。東日本大震災の津波で失われた海岸防災林の再生を特集。12年度には約50キロの植林事業に着手。 ・全国的に林業に就く若者が増え、女性も関心を持ち始めているとした。
北海道新聞	6/7	<p>【国産材供給量 回復 林業白書 新規就業者増加で】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府は7日、2012年度の森林・林業白書を閣議決定した。国産材供給量が、間伐推進や林業への新規就業者増加により11年には1,937万立方メートルへ回復しているとした。 ・白書では、東日本大震災で防災林が津波到達時間を遅らせる効果があったことを踏まえ、被災地の約50キロメートルの海岸線で防災林再生に着手。 ・再生可能エネルギーとして木質バイオマスの利用も推進するとした。
東奥日報	6/7	<p>【海岸防災林再生を特集 12年度林業白書 若者の就業進む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府は7日、2012年度の森林・林業白書を閣議決定した。東日本大震災の津波で失われた海岸防災林の再生を特集。宮城県名取市でクロマツの苗を育てているプロジェクトや、同県七ヶ浜町で行われた植樹の活動事例を示した。 ・全国の林業従事者は「下げ止まりの兆しがうかがえる」と分析。35歳未満の就業者が1995年以来伸び続け、若手の比率が高くなっているとした。
西日本新聞	6/8	<p>【林業白書 「若者の就業進む」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府は7日、2012年度の森林・林業白書を閣議決定した。東日本大震災の津波で失われた海岸防災林の再生を特集。12年度には約50キロの植林事業に着手。 ・全国的に林業に就く若者が増え、女性も関心を持ち始めているとした。

紙名	日付	記事の概要
愛媛新聞	6/8	<p>【12年度林業白書で海岸防災林の再生を特集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府は7日、2012年度の森林・林業白書を閣議決定した。東日本大震災の津波で失われた海岸防災林の再生を特集。宮城県名取市でクロマツの苗を育てているプロジェクトや、同県七ヶ浜町で行われた植樹の活動事例を示した。
長崎新聞	6/8	<p>【林業白書 海岸防災林の再生特集 青森から千葉まで10年での復旧目指す】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府は7日、2012年度の森林・林業白書を閣議決定した。東日本大震災の津波で失われた海岸防災林の再生を特集。宮城県名取市でクロマツの苗を育てているプロジェクトや、同県七ヶ浜町で行われた植樹の活動事例を示した。 ・全国の林業従事者は「下げ止まりの兆しがうかがえる」と分析。35歳未満の就業者が1995年以来伸び続け、若手の比率が高くなっているとした。
日本農業新聞	6/8	<p>【木質資源利用さらに 12年度林業白書 若年層就業は増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府は7日に2012年度森林・林業白書を閣議決定した。木材自給率向上に向けて、公共建築物の木造化や間伐材を使った木質バイオマス発電などを推進する重要性を強調。「緑の雇用」事業により、若年層の就業割合が上昇傾向にあるとした。 <p>【(社説) 林業白書 「宝の山」をより豊かに】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2012年度の林業白書は、特集で森林の再生と国有林の重要な役割をあげた。 ・林業振興のポイントは、間伐材をこれまで以上にどう活用するかであり、山林はあらゆるものを生み出す「宝の山」であり、再生を加速したい。
日刊木材新聞	6/27	<p>【12年度森林・林業白書 林業再生の取組み等紹介 東北の製材生産はほぼ回復】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12年度森林・林業白書は、森林・林業の再生に向けた取組や今年4月に一般会計に移行した国有林野事業の方向性、東日本大震災からの復旧・復興を特集。 ・被災した木材加工等施設115箇所のうち96箇所の操業が再開し、東北地方の製材生産が回復していることを示した。

「平成24年度森林・林業白書」の広報・普及について

1. 閣議決定本の配布

閣議決定本を3,800部印刷して、国会に提出(約1,000部)するとともに、関係省庁(約150部)、都道府県(約240部)、都道府県立林業試験場(約50部)、都道府県立図書館(約110部)、林業関係団体(約260部)、農業高校(約70部)、大学・短期大学(約40部)等に配布。

また、農林水産省ホームページにPDFファイルを掲載。

2. 市販本の出版

広く一般向けに周知することを目的に、印刷・出版の要望があった2者に対し出版許可を行い、市販本計7,600部を出版・配布。

- ・一般社団法人全国林業改良普及協会：5,000部
- ・一般財団法人農林統計協会：2,600部

3. 説明会の開催

農林水産白書合同説明会や大学等の主催する説明会において、合計28回、約1,200名に対して、「森林・林業白書」の概要を直接説明。(大学等の説明会では、参加者に対して、自由記述のアンケート調査を実施。)

(1) 農林水産白書合同説明会

農政局等毎の8ブロックにおいて、農林水3白書の合同説明会を開催。都道府県、市町村、森林・林業関係者等を中心に、計約470名が参加。

北海道農政事務所(7/16)、東北農政局(7/11)、関東農政局(7/19)、北陸農政局(7/12)、東海農政局(7/10)、近畿農政局(7/18)、中国四国農政局(7/5)、沖縄総合事務局(7/24)

(2) 大学

全国の16大学において、主に講義の一環として、白書説明会を計17回開催。今年度は、一橋大学、金沢大学、三重大学の3大学で新規に開催。農学部等の学生を中心に、計約660名が参加。

北海道大学(7/16)、筑波大学(6/20)、宇都宮大学(6/13)、
東京大学(6/11, 7/3)、東京農業大学(6/27)、東京農工大学(6/28)、
日本大学(6/19)、一橋大学(7/5)、国際基督教大学(7/4)、新潟大学(7/2)、
金沢大学(7/11)、三重大学(7/26)、岡山大学(7/5)、愛媛大学(7/10)、
九州大学(8/9)、琉球大学(7/25)

(3) その他

開催要望のあった3者において、白書説明会を開催。今年度は、林業女子会@東京で新規に開催。計約55名が参加。

日本政策金融公庫(6/24)
日本林政ジャーナリストの会(6/26)
林業女子会@東京(7/18)

4. 解説記事の投稿

森林・林業関係誌5紙に、白書の解説記事を投稿。今年度は、「森林組合」で新規に記事を掲載。

「月刊RINYA 6月号」(林野庁広報室)
「森林と林業 6月号」(日本林業協会)
「山林 7月号」(大日本山林会)
「森林技術 7月号」(日本森林技術協会)
「森林組合 7月号」(全国森林組合連合会)

5. 英語版の作成

白書の概要を英語版で作成。1,000部印刷するとともに、農林水産省ホームページにPDFファイルを掲載。印刷物は、約30の海外関係機関等に送付。

(以上)

「平成24年度森林・林業白書」に対する主な評価

1. 全般に関するもの

(主に内容について)

- ・ 日本の森林と林業の現状を全体的に理解する上で、一読の価値があり、他に代わるものがない。
- ・ 森林・林業に関する幅広い事項が取り上げられている。取り扱う範囲の拡大と深化に注目させられる。
- ・ 資料や事例が更に充実し、ますます詳細かつ網羅的になっている。専門課程の学生の参考テキストや資料集としても十分活用可能と思った。
- ・ 資料的価値を高めるために、脚注を充実させたことは高く評価したい。
- ・ 林野庁がこうしたいという目標やメッセージ(方向性)がもっと明確に伝わる白書になればよい。

(主に表現について)

- ・ 年々、読みやすく、理解しやすい表現になっていると思う。
- ・ 図表や写真は、内容の理解に役立ち、出典の表示は、興味を持った内容をさらに調べるために使いやすい。
- ・ 白書に出てくる専門用語の語句説明等があるとよい。

(その他)

- ・ 「森林・林業白書」と聞いて、とてもつまらなくて難しいものと思っていたが、全くつまらなくななくて、逆に興味をひかれるものであった。
- ・ 興味を持った項目が沢山あり、これから日本の林業が大きく変わっていく期待が生まれた。

2. 第I章(特集章)に関するもの

- ・ 森林・林業の再生と国有林についてコンパクトにまとまっており、引用文献や本文との関連なども詳細に記されている。
- ・ 森林・林業の再生に向けた取組として、具体的かつ現実的な施策が多く実施されていることを知った。

- ・数年前までは、「林業はもうからない」というのが定説であったが、少しずつ光が差しているように感じた。
- ・国有林の現在と今後の課題についての記述はあったが、戦後の林政統一後の国有林経営の総括について、もう少し記述があっても良かった。

3. 通常章に関するもの

- ・外国人による水源の購入は、報道のみならず、林野庁のデータなどもしっかり確認する必要があると感じた。
- ・日本の森林資源を活用するため、需要と供給を高める様々な施策が実行され始めているということが良く分かった。
- ・人口が減少していく日本で、木材需要を確保していくことは重要なことだと思った。
- ・国産材の生産量のうち、カラマツの生産量がヒノキの生産量を追い抜いたことが印象に残った。

(以上)